

July 14, 2021

【前日の為替概況】米6月CPI前年比+5.4%でドル上昇、対円110.65円、対ユーロ1.1772ドル

13日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3日続伸。終値は110.63円と前営業日NY終値(110.37円)と比べて26銭程度のドル高水準。時間外の米10年債利回りが小幅に低下したことが相場の重しとなり、21時前に一時110.20円と日通し安値を付けたものの、6月米消費者物価指数(CPI)が予想を大きく上回る内容だったことが分かると、米長期金利の上昇とともにドル買いが優勢となった。その後、米長期金利が低下に転じると一時110.29円付近まで下押ししたものの、「低調」な米30年債入札を受けて米10年債利回りが1.42%台へ戻すと、110.65円と日通し高値を付けている。

FOMCで投票権を有するデイリー米サンフランシスコ連銀総裁は「物価上昇は一時的なものとして見ている。テーパリングについて議論するのは適切。年末か来年早々のテーパリングに向けて状況が整う」と述べた一方、利上げについては「議論するのは時期尚早」との考えを示したが、相場の反応は限られた。

ユーロドルは続落。終値は1.1776ドルと前営業日NY終値(1.1861ドル)と比べて0.0085ドル程度のユーロ安水準。予想を上回る米CPIを受けて全般ドル買いが先行すると一時1.1792ドルまで値を下げたものの、米長期金利が低下に転じると一転買い戻しが優勢に。23時30分前に1.1833ドル付近まで下げ渋った。ただ、低調な米国債入札を受けて米長期金利が再び上昇すると改めてユーロ売り・ドル買いが優勢に。5時前に一時1.1772ドルと日通し安値を付けた。

ユーロ円は3営業日ぶりに反落。終値は130.29円と前営業日NY終値(130.92円)と比べて63銭程度のユーロ安水準。ドル円の上昇につれた買いが入った半面、ユーロドルの下落につれた売りが出たためじり安の展開に。米国株相場の下落に伴う円買い・ユーロ売りも入り、130.21円と本日安値を付けた。

南アフリカランドはこの日も売りが継続した。同国内での暴動が拡大する中、対円で一時7.49円と4月13日以来3カ月ぶりの安値を付けたほか、対ドルでは一時14.7583ランドと4月1日以来約3カ月ぶりの安値を更新した。

【本日の東京為替見通し】今夜のパウエルFRB議長の議会証言控えて動きづらい展開か

本日の東京外国為替市場のドル円は、今夜のパウエルFRB議長の議会証言を控えて動きづらい展開が予想される。

パウエルFRB議長が、一時的、一過性で見なしているインフレ高進に関しては、米国6月の消費者物価指数は前年比+5.4%となり、2008年以來の高い伸びとなった。また、ニューヨーク地区連銀の6月月次調査では、米消費者のインフレ率や収入の伸びに関する期待が膨らみ、米経済が来年も新型コロナウイルスのパンデミック(世界的大流行)に伴う影響から急速に回復し続けると予想されていることが判明しており、1年先のインフレ期待の中央値は+4.8%となり、8カ月連続で上昇している。米連邦準備理事会(FRB)が公表した金融政策報告書では、短期的なインフレ見通しの上方向へのリスクが拡大したと物価の上振れリスクを警戒しながらも、供給制約が薄れるとともに2%強の目標水準に落ち着くと従来の見解を強調し、完全に回復するまで経済を強力に支援し続ける、リスクが発生した場合、金融政策のスタンスを調整する用意がある、との従来のスタンスが再確認されている。

国際通貨基金(IMF)は、米国に関する4条協議終了を受けた声明で、米連邦準備理事会(FRB)がテーパリング(資産購入の段階的縮小)を2022年前半に開始し、2022年終盤または23年序盤に利上げを開始する必要があるとの見解を示した。すなわち、バイデン米政権のインフラ整備を軸とする「米雇用計画」と社会保障拡充に向けた「米国の家族のための計画」による政府支出増加で、インフレ率が期間平均の目標を上回る水準にとどまると予想している。パウエルFRB議長は、内部のニューヨーク地区連銀と外部の国際通貨基金(IMF)によるインフレ高進見通しに対して、一時的との見解を議会に説明することになる。

リスクシナリオは、7月28日の米連邦公開市場委員会(FOMC)でテーパリング開始を示唆し、8月26-28日のジャクソンホール会合で9月FOMCでの公表を示唆するシナリオとなる。

ドル円のオーダー状況は、上値には、110.70-80円に断続的にドル売りオーダー、110.90円、111.00円にドル売りオーダーが控えている。下値には、110.10-20円に断続的にドル買いオーダーが控えている。

NZ準備銀行は、本日の金融政策決定会合で、政策金利を0.25%に据え置くことが予想されているものの、リスクシナリオとして、年内の利上げ開始を示唆する可能性が警戒されている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 13:30 ◇ 5月鉱工業生産確報
- 13:30 ◇ 5月設備稼働率

<海外>

- 09:00 ◎ 4-6月期シンガポール国内総生産（GDP）速報値（予想：前期比年率▲1.8%）
- 09:30 ◇ 7月豪ウエストパック消費者信頼感指数
- 11:00 ☆ ニュージーランド準備銀行（RBNZ）、政策金利発表（予想：0.25%で据え置き）
- 15:00 ◎ 6月英消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.2%/前年比2.2%）
- 15:00 ◎ CPIコア指数（予想：前年比2.0%）
- 15:00 ◇ 6月英小売物価指数（RPI、予想：前月比0.3%/前年比3.4%）
- 15:30 ◎ 6月インド卸売物価指数（WPI、予想：前年比12.23%）
- 16:30 ◎ 6月スウェーデン消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.1%/前年比1.3%）
コア指数（予想：前月比0.1%/前年比1.5%）
- 18:00 ◎ 5月ユーロ圏鉱工業生産（予想：前月比▲0.2%/前年比22.2%）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 20:00 ◇ 5月南アフリカ小売売上高（予想：前年同月比12.2%）
- 20:00 ◎ トルコ中銀、政策金利発表（予想：19.00%で据え置き）
- 21:30 ◇ 5月カナダ製造業出荷（予想：前月比1.0%）
- 21:30 ◎ 6月米卸売物価指数（PPI、予想：前月比0.6%/前年比6.8%）
◎ 食品とエネルギーを除くコア指数（予想：前月比0.5%/前年比5.1%）
- 21:45 ◎ シュナーベル欧州中央銀行（ECB）専務理事、講演
- 23:00 ☆ カナダ銀行（BOC、中央銀行）、政策金利発表（予想：0.25%で据え置き）
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 15日 01:00 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、米下院金融サービス委員会で金融政策や経済情勢に関する半期に一度の証言
- 15日 02:00 ◎ ラムスデン英中銀（BOE）副総裁、講演
- 15日 02:30 ◎ カシュカリ米ミネアポリス連銀総裁、講演
- 15日 03:00 ◎ 米地区連銀経済報告（ページブック）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

13 日 15:08 イングランド銀行(BOE)金融安定報告書
「銀行の配当制限を解除する」
「ストレステストの中間結果が示すように、銀行業界は依然として強い」

13 日 16:32 中国外務省報道官
「米国による香港情勢への干渉に反対」

13 日 16:57 ラガルド ECB 総裁
「新しい戦略により、約 2%のインフレに柔軟に対応できるようになる」
「戦略レビューに合わせてフォワードガイダンスを再定義する必要がある」
「2%は上限ではなく、2%前後で変動すると認識している」

13 日 19:34 メルケル独首相
「パンデミックは終わっていない」
「ワクチンの義務化は必要ではない」
「18 歳から 59 歳の間でワクチン接種率を 85%にするのは難しい」

13 日 22:51 ジョーダン・スイス国立銀行(スイス中銀、SNB)総裁
「スイスの長期インフレ期待は依然としてしっかり抑制されている」
「金融政策はすでに柔軟で対称的」
「必要に応じて為替介入を含む、異例の手段を引き続き用いる」

13 日 23:07 センテノ・ポルトガル中銀総裁
「ECB 金融戦略の見直しにおいて、フォワードガイダンスの新たな枠組みに適合するインフレの許容度拡大を示すことが非常に重要で、そうでなければ信頼性を失う」
「ユーロ圏のインフレの高まりは極めて一時的」
「新たな戦略は一時的で緩やかな 2%超えを許容するものとなり、我々は以前なら見逃していなかった目標の逸脱に対して忍耐強く、寛容にならなければならない」

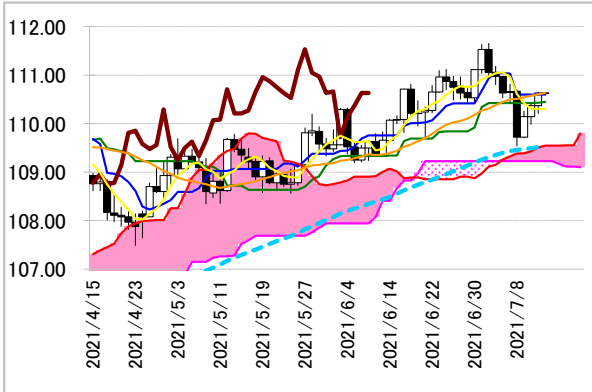
13 日 23:22 米務省
「中国新疆ウイグル自治区に関連したり、潜在的に関連したりしている企業や個人は、強制労働など人権侵害につながっているリスクに留意すべき」

「新疆に関連したサプライチェーンに携わっている企業や個人は、米国法を犯しているリスクがある」

14 日 00:28 デイリー米サンフランシスコ連銀総裁
「物価上昇は一時的なものとして見ている」
「長期的なインフレ期待は安定している」
「テーパリングについて議論するのは適切」
「利上げについて議論するのは時期尚早」
「利上げについて議論する前に、完全雇用にどれだけ近づることができるかを確認する必要」
「年末か来年早々のテーパリングに向けて状況が整う」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

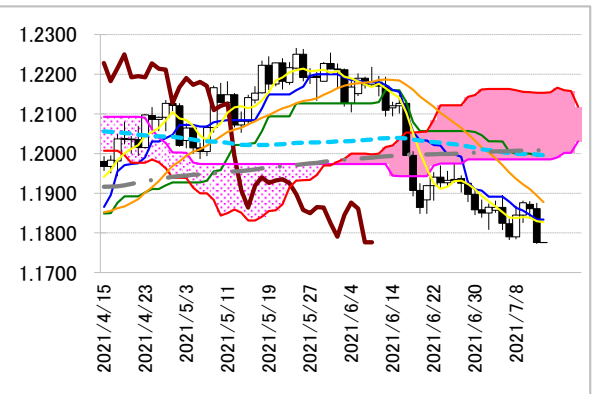


<ドル円=雲の上限を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、一目・雲の上で引けていることから、三役好転の強い買いシグナルが点灯している。3手連続陽線（赤三兵）で反発し、転換線を上回って引けていることから続伸の可能性が示唆されている。

本日は、雲の上限を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	111.66(7/2 高値)
前日終値	110.63
サポート1	109.55(日足一目均衡表・雲の上限)
サポート2	109.23(日足一目均衡表・雲の下限)

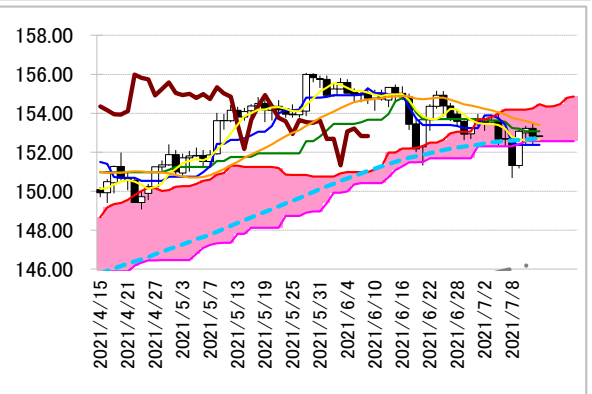


<ユーロドル=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。2手連続陰線で下落し、転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	1.1834(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1776
サポート1	1.1704(3/31 安値)

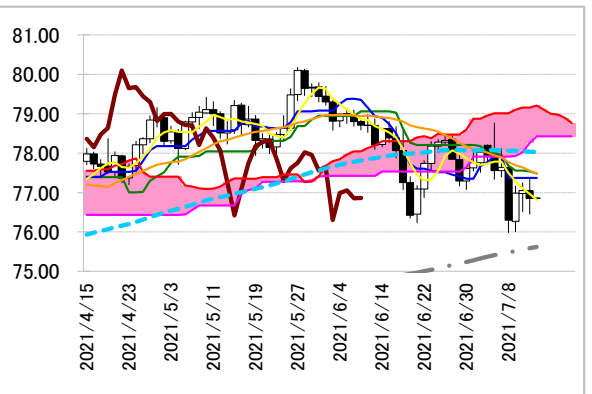


<ポンド円=転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の中で引けていることから、売りシグナルが優勢な展開となっている。抱き線で反落しているものの、転換線を上回って引けていることから反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	154.47(日足一目均衡表・雲の上限)
前日終値	152.83
サポート1	152.37(日足一目均衡表・転換線)



<NZドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、一目・雲の下で引けていることから、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。抱き線で反落し、転換線を下回って引けていることから続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス1	77.37(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	76.85
サポート1	75.98(7/8 安値)

